

# 高木まり

Vol.12  
2005.11

## さいたま変革プロジェクトNEWS

民主党さいたま・市政レポート北区版

発行所:民主党さいたま市議会議員団 北区事務所:〒331-0812 さいたま市北区宮原町3-279-6-202  
TEL 048-654-2559 FAX 048-652-6445 メールtakagi@marit.jp

高木まり  
さいたま市議会議員

1967年生まれ  
東京大学法学部卒  
東京銀行勤務  
枝野幸男秘書を経て  
2003年さいたま市議会議員初当選



高木まり  
公式サイト

<http://www.marit.jp>

9月議会  
代表質問



# さいたま市の「子育て環境」をチェックする。

9月7日から10月11日で9月議会が開かれ、高木は会派を代表しての代表質問に立ちました。2月に自ら出産をしてから経験したこと、出会った方々から寄せられたたくさんのお意見をふまえ、子育て支援に焦点を絞った質問を行いました。

## 市長に伺います。

高木

「子育てするならさいたま市」を目指してどんなに担当部署ががんばっても、最後に予算がつかなくては何もできません。しかし現在市の財政は、大変厳しい状況です。その中で、市長が「これだけは絶対にやる」との覚悟で予算を優先確保する施策は何ですか？



市長

市長就任以来、子育て支援策の充実に関しては最優先課題として位置づけ、積極的な財政措置を講じてきましたが、今後もこれを続けます。特に、マニフェスト示した施策につき、着実に実現を図ってまいります。

## 保育所整備を一気に進めることはできないか？

Q

さいたま市の保育所が「待っても待っても入れない」状況が続いており、現場では深刻な状況が続いている。本市が従来の5ヵ年計画を前倒し、整備に力を入れてきたのは理解しているが、それでも足りない。一年で38園も整備した横浜市のように、待機を一気に解消できるような思い切った整備をする覚悟はないか。

A

一気に解消するのは、財政的に他の事業への影響も大きく難しいが、諸事業の前倒し等柔軟に対応する中で待機解消を図りたい。

## 子育て支援は本当に必要な人に届いているか？

Q

人気の高い母親学級などの各種教室では、申し込み開始時にすぐいっぱいになり入れない状況と聞くが、一部の人が受けられないサービスでよいのか。また、新生児訪問は、訪問希望の葉書を出した人に行われているが、産後うつや虐待など、この訪問で救うべき人たちはなかなか自ら葉書を出せない。全新生児を対象にすべきでは。

A

各種教室の定員については、今後も市民の希望に副えるよう検討する。新生児訪問についても、全ての新生児を訪問することは望ましいと考えているので、葉書を出しやすいよう返信切手不要としたり、事業のPRに努めている。今後も周知に努力する。

## 道路・公園、子育てしやすい街になっているか？

Q

市内には子供を連れて歩いて行ける身近な公園が足りない。また、ベビーカーを利用すると歩道のない道、狭い踏み切りの危険さを痛感する。せめて側溝の蓋かけ、一方通行路の導入などで、子育てしやすい街への環境整備も必要と考えるが、対応は？

A

公園は、財政が厳しいので用地を買収に頼らず、市所有の未利用地の活用を含め創意工夫で整備していく。道については関係者の協力が必要なので、側溝は従来の地権者発意の制度で対応し、一方通行も地元要望があれば対応していく。